

本科 1 期 5 月度

解答

Z会東大進学教室

高2東大日本史



4章 平城京の時代

問題

【1】

解答

問1 A (5) B (10) C (3) D (2) a (7) b (8) c (2)
1 (7) 2 (2) 3 (9)

問2 I (8)(9) II (14) III (3) IV (1)(6)(10)(13) V (4) VI (11)

解説

奈良時代の政治史を押さえる際には、政権担当者とその政権時に起こったことをあわせて把握すること。奈良時代の政治史全体の流れを押さえ、以下の表のようにまとめておこう。

天皇	政権担当者	起こった出来事
文武天皇	藤原不比等	701年 大宝律令制定
元明天皇		710年 平城京遷都
元正天皇		718年 養老律令成立（施行は757年）
聖武天皇	長屋王	722年 百万町歩開墾計画 723年 三世一身法 729年 長屋王の変
	藤原四子（武智麻呂・房前・宇合・麻呂）	729年 光明子立后 737年 天然痘により藤原四子死去
	橘諸兄（玄昉・吉備真備登用）	740年 藤原広嗣の乱 ⇒聖武、恭仁京遷都（740）→難波宮（744） →紫香楽宮（744）→平城京（745） 741年 国分寺建立の詔 743年 大仏造立の詔 墾田永年私財法
孝謙天皇		
淳仁天皇	藤原仲麻呂	757年 橘奈良麻呂の変
称徳天皇	道鏡	764年 藤原仲麻呂の乱 769年 宇佐八幡神託事件

【2】

解答

設問1 ① 設問2 ② 設問3 ② 設問4 ④ 設問5 ③

解説

提示されたのは、743年に出された墾田永年私財法の一部である。教科書にも掲載されている重要史料であるので、史料の内容やポイントとなる文章を確認しておこう。

設問1 下線部にある「養老七年の格」とは、723（養老7）年に出された三世一身法のことである。三世一身法では、未開地を新たに開墾した場合には三世にわたり田地の保有が認められていたが、期限が過ぎれば、国に収めることになっていた。

設問2 律令の条文の補足や改正のために出された法令を格、律令を運営する際の具体的な規定を式という。9世紀の嵯峨天皇の時代に格・式の分類・編纂が行われ、弘仁格式が編纂された。その後も編纂は受け継がれ、清和天皇の時に『貞觀格式』が、醍醐天皇の時に『延喜格式』が編纂された。これらの格式を合わせて、三代格式と呼ぶ。なお、三代の格を集めたものが『類聚三代格』である。

設問3 墾田永年私財法では、墾田の永久私有が認められたが、墾田の面積は身分によって制限されており、庶民には10町の所有が認められていた。また、墾田は租を収める必要のある輸租田であった。

設問4 律令制下での農民の負担は重く、口分田を捨てて浮浪・逃亡するものが多く現れた。一方で人口の増加によって、口分田は不足していた。そこで政府は三世一身法を出して耕地の拡大をはかったが、期限付きであったためにうまくいかず、開墾地の永久私有を認める墾田永年私財法が出されたのである。

設問5 大寺院や地方豪族が、国司や郡司の協力を得て、付近の農民や浮浪人らを動員して大規模に開墾して成立した開墾地を、初期莊園という。初期莊園は、国司・郡司などの律令制の地方支配機構に依存していたため、10世紀に律令制が崩壊すると、その大部分が衰退していった。③の、貴族などに寄進して租税納入を拒否することがあったのは、寄進地系莊園である。

5章 摂関政治

問題

【1】

解答

- (1) ハ (2) ロ (3) ニ (4) ハ (5) イ

解説

史料は『日本後紀』からの引用で、天下徳政論争と呼ばれ「軍事」と「造作」の二大事業の中止の経緯を記した箇所である。「勅」は桓武天皇によって出されたもの。事業の中止の意見を述べた藤原朝臣緒嗣は藤原百川の子である。一方これに反対した菅野朝臣真道は、桓武天皇の側近で、造宮長官として平安京の造営にあたった人物である。

- (1) 延暦二十四年は西暦 805 年にあたる。
- (2) 桓武天皇は 788 (延暦 7) 年、紀吉佐美率いる 5 万余りの蝦夷征討軍を派遣したが、翌年、北上川付近で阿彌流為率いる軍に大敗した。しかし桓武天皇は 794 (延暦 13) 年、征夷大使に大伴弟麻呂、副使に坂上田村麻呂を起用して再び軍を派遣、胆沢を平定した。その際、実力を認められた坂上田村麻呂は、征夷大將軍に任せられ、801 (延暦 20) 年に蝦夷の奥地を征討、翌年には胆沢城を築き、阿彌流為を降伏させた。蝦夷地の支配の確立をめざした桓武天皇は、803 (延暦 22) 年に坂上田村麻呂に命じて志波城を築かせ、さらなる征討軍の派遣を計画したが、緒嗣が蝦夷征討の中止を建議したことにより実施されなかった。
- (3) 平安時代初期の事項を選べばよい。ハの「多賀城」は 724 (神亀元) 年、大野東人によつて設置されたとする説がある。
- (5) 「百姓安んぜん」という緒嗣の意見から、解答は導きだせるであろう。なおこの日、諸司に勤務する仕丁・衛士の計 1500 余人の減員が実施され、使役の期限が 2 日に限られるなど、農民の負担の大幅な軽減がはかられた。

【2】

解答

1. イ 2. オ 3. エ 4. ス 5. ソ
A. 式 B. 承和 C. 応天門 D. 阿衡 E. 安和

解説

〈薬子の変〉

平城天皇は即位後 3 年で退位し、寵愛する藤原式家の藤原藥子・仲成とともに平城京に移り、嵯峨天皇が即位する。しかし平城京に移った平城太上天皇（平城上皇）は、そこで詔を発するなど、2 つの朝廷が並立するような様相を呈した。これに対して嵯峨天皇は藤原北家の藤原冬嗣らを藏人頭に任命し、機密を預からせた。

平城太上天皇が平城京への遷都を命ずると、朝廷ももはや対抗せざるを得なくなり、藥子の変が起きた。結果、平城太上天皇は出家、藥子は自殺、仲成は射殺された。

薬子の変によって、平城太上天皇の系統は完全に皇位から除外され、また、式家の衰退、北家興隆の端緒となった。

〈承和の変〉

承和の変は嵯峨上皇の死後に、皇太子恒貞親王と橘逸勢と伴健岑が謀叛を企んだという事件。後に、仁明天皇の子で、藤原良房の妹の子の道康親王が皇太子になったことから藤原良房によって仕組まれた陰謀事件と考えられる。

〈応天門の変〉

866（貞觀8）年に、朝堂院の正門である応天門が炎上した。当初、左大臣源信に嫌疑がかけられたが、後に、源信の失脚をねらった大納言伴善男の仕業とされ、伴善男は流罪、名族伴氏（もと大伴氏。^{じゅんな}淳和天皇が大伴皇子という名だったので伴氏に変えた）は没落した。事件の真相は謎な部分が多いが、やはり、有力氏族の失脚といったことから事件処理にあたった藤原良房にもっとも利があった。

〈阿衡の紛議（阿衡事件）〉

「阿衡」は古代中国では人臣の最高位で、宇多天皇は藤原基経に送る文面に阿衡の字を用いたが、「阿衡には職掌がない」という学説をたてに、基経は出仕しなくなった。起草者の橘廣相は当時、文人派官人の巨頭で、天皇の信頼も厚く、娘も入内しており、藤原氏にとって侮りがたい勢力であった。この事件により橘廣相は責任を追及され、また、基経は娘を入内させることに成功した。

〈安和の変〉

左大臣源高明が左遷された事件で、源満仲が密告。高明は醍醐天皇の皇子で、娘は村上天皇の皇子^{ためひら}為平親王に嫁いでいた。為平親王は有力な皇太子候補であったため、陰謀により排斥された。安和の変は藤原氏の他氏排斥事件の最後であり、その後、藤原北家忠平流が摂関の地位を占めていった。とくに道長・頼通の時は最盛期であった。

6章 荘園と武士

問題

【1】

解答

- [A] (1) 班田収授 (2) 田堵 (3) 開発領主 (4) 受領（国司） (5) 不輸の権
(6) 檢田使 (7) 不入の権 (8) 荘園整理令

[B] 受領は倒るるところに土をつかめ

解説

9世紀になると、班田収授は浮浪・逃亡や偽籍などにより、制度的に運営が困難になっていった。朝廷は班田制の再建を何度も試みたがうまくいかず、国司に一定額の税の納入を請け負わせ、一国内の統治を委ねるようになった。任国に赴任した国司のうち、最上席の者は受領と呼ばれた。

国司は、名といわれる単位の田の耕作を有力農民である田堵に請け負わせ、年貢などの負担を課すようになった。10世紀後半になると、田堵の中には勢力を拡大するものが現れた。その中でも開墾によって肥大化したものを開発領主と呼び、彼らは徴税の強化をねらう国司と対立するようになった。開発領主は中央の有力貴族に土地を寄進する形をとることにより、検田使の立ち入りを拒否できる不入の権や、租税免除特權の不輸の権などを得て、国司の圧力に対抗しようとした。そのため、たびたび朝廷から莊園整理令が出されたが、あまり効果はなかった。

【2】

解答

1. 19 2. 31 3. 15 4. 17 5. 2 6. 12 7. 44 8. 1
9. 22 10. 11 11. 13 12. 1 13. 24 14. 14 15. 21 16. 32
17. 9 18. 8 19. 9

解説

第1段落は承平・天慶の乱、第2段落は平忠常の乱～後三年の役の源氏の東国進出、第3段落は平氏の台頭を表す文章である。以下に流れをまとめたのでさらっておいてほしい。

承平・天慶の乱	939年～41年	935年：平将門、叔父の国香を討つ
		939年：平将門、常陸・上野・下野の国府を攻略、新皇と称す
		939年：藤原純友が反乱を起こし、大宰府を襲う
		940年：平将門、平貞盛・藤原秀郷に討たれる
		941年：藤原純友、小野好古・源経基に討たれる
平忠常の乱	1028年～31年	平忠常が反乱を起こし、安房国守を殺害
		朝廷は甲斐守源頼信を派遣し、忠常は降伏
		⇒東国の大桓武平氏は衰退、清和源氏が東国に進出

前九年の役	1051年～62年	陸奥の奥六郡（胆沢・江刺・和賀・稗貫・紫波・磐手）の俘囚の長安倍頼時が反乱を起こし、源頼義・義家が出兵 頼義らは、出羽の豪族清原武則の助けを得て平定した
後三年の役	1083年～87年	源義家が清原氏の相続争いに介入し、藤原清衡を助けて清原家衡を滅ぼす ⇒源氏が東国に地盤を確立 奥州では清衡・基衡・秀衡の奥州藤原氏3代が霸権を握る
源義親の乱	1108年	源義家の子義親が出雲の日代を襲撃、平正盛がこれを鎮圧 ⇒源氏の勢力が衰退、伊勢平氏が北面の武士として台頭 ※正盛の子平忠盛は白河・鳥羽院の寵を受けて受領を歴任 山陽・南海の海賊を討伐して西国に基盤を築いた
保元の乱	1156年	後白河天皇と崇徳上皇の対立に摂関家の家督争いが加わる 後白河方が勝利。源義朝・平清盛ら武士が活躍
平治の乱	1159年	藤原信頼・源義朝と藤原通憲（信西）・平清盛の権力闘争 勝利し生き残った平清盛が権力を掌握

7章 院政と平氏政権

問題

【1】

解答

- 1 (2) 2 後三条 3 (5) 4 (1) 5 (5) 6 上皇 7 執柄の政
8 (3) 9 空欄 8 (4) 空欄 9 (1)

解説

白河院の治世を題材とした史料問題であり、出典は南北朝時代に北畠親房が著した『神皇正統記』である。白河は後三条天皇の子として生まれ、弟の輔仁親王を退けて子の堀河天皇を保護すべく院政を開始した。堀河・鳥羽・崇徳の3代にわたって院政を行い、絶大な権力を振るった。院政は、上皇（法皇）が天皇の父で元天皇といった立場から権力を行使する（治天の君といわれる）もので、院宣は宣旨に相当した。院庁が政治を行う役所として置かれ、院の近臣は反摂関の受領層を中心であった。院政期には寺社への参拝も盛んで、熊野詣も盛んに行われた。また、六勝寺などの御願寺（天皇や皇族などのために祈願を行う寺院）も盛んに建立された。

史料の読解についてだが、設問7は「ふるきすがた」について、まずは前代の摂関政治を想定した上で、史料中から摂関政治のことをさす語を探していく。『主上をさなくおはします時』に着目すれば、そこから「執柄の政」が答として導き出せる。設問8は、下線部(7)の「おりぬ」から、「おりる」すなわち「退位」の意を読み取ろう。

【2】

解答

- 問1 平忠常 問2 清和 問3 c - 1 : 前九年の役 c - 2 : 後三年の役
問4 平正盛 問5 藤原頼長 問6 藤原通憲 問7 藤原信頼
問8 h - 1 : 保元の乱 h - 2 : 平治の乱 問9 蓮華王院 問10 安徳
問11 外戚 問12 宋 問13 大輪田泊

解説

問1～問3 源氏は、清和天皇の孫である源経基（経基王）が臣籍降下し源姓を賜った時から始まる。経基の子である源満仲は摂関家に仕えて勢力を強め、その子である源頼信はさらに摂関家に近づき、権威を強めた。そうした中で起きたのが、平忠常の乱であった。1028（長元元）年に平忠常が上総・下総に勢力を広げて反乱を起こすと、朝廷から派遣された源頼信がこれを鎮圧した。源氏はこの後、陸奥の豪族安倍氏を滅ぼした前九年の役、陸奥・出羽両国で勢力を強めた清原氏の内紛を平定した後三年の役で、東国武士との主従関係を強めていった。

問4 桓武平氏のうち、平貞盛の子である平維衡に始まる流れを伊勢平氏という。なかでも平正盛は、出雲で反乱を起こした源義親を討伐して武名を上げた他、白河上皇に荘園を寄進するなどして政界への進出をはかった。

問5～問8 1156（保元元）年に鳥羽法皇が亡くなると、天皇家と摂関家の家督争いが表面化した。この争いに、平氏・源氏が介入し、保元の乱・平治の乱が生じた。対立関係については、下記の表を参照してほしい。

保元の乱の対立関係

○後白河天皇方	後白河天皇（弟）	藤原忠通（兄）	源義朝（子、兄）	平清盛（甥）
	天皇家	摂関家	源氏	平氏
×崇徳上皇方	崇徳上皇（兄）	藤原頼長（弟）	源為義（父） 源為朝（弟）	平忠正（叔父）

平治の乱の対立関係

○	藤原通憲（信西）	平氏：平清盛・重盛・頼盛
	院の近臣の藤原氏	
×	藤原信頼	源氏：源義朝・義平・頼朝

問9 平清盛が後白河法皇のために造営したのは蓮華王院である。

問10・問11 清盛の娘平徳子と高倉天皇の間に生まれた子は、安徳天皇として即位した。清盛は、安徳天皇の外戚として、権力を振るった。

問12・問13 平氏は平忠盛以来、日宋貿易に力を入れており、清盛は摂津の大輪田泊を修築して貿易を推進した。

J2J
高2東大日本史



会員番号	
------	--

氏名	
----	--